

(別紙様式)

都道府県番号	4
都道府県名	宮城県

()
該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

三本木町立三本木小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2	3	2	2	3	16		
児童数	62	67	68	81	76	73	4	431	24	

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ) 児童一人一人の確かな学力の向上をめざして 指導方法・指導体制の工夫改善を通して</p> <p>・テーマ設定の趣旨 21世紀の社会を心豊かに、たくましく生きていくために必要な「生きる力」をはぐくむには、児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の充実を図ることが求められる。 本校の児童の実態からも、児童一人一人の願いや実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図り、児童が生き生きと意欲的に学習し、学ぶ楽しさ、分かる喜びが味わえるように努めることが必要であると考え。 本校ではこれまでも「進んで学び、生き生きと活動する子ども」という児童像を具現化するために算数科のTT指導に取り組んできた。今年度はより多くの学年や教科において指導方法や指導体制の充実を図り、個性を尊重し、よさや可能性をのばしていく教育が必要と考え、本主題を設定した。</p>

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

- ・「指導法改善部」の設立・運営

研究推進に関わるTT指導、少人数指導の加配同士の情報交換・連絡調整を行うための部会として設立。週一回(月曜1校時)の部会開催を実施した。

() 実践研究の内容 「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」

1 児童の実態を踏まえた、理解や習熟の程度に応じた指導

(1) 算数科におけるTT指導・少人数指導による指導体制の工夫改善

全学年でのTT指導・少人数指導

今年度は学年(部)に加配を配置し、担当学年(部)による算数科の指導体制や指導方法の工夫改善を実践している。単元の内容を見通し、各学年の児童の実態に応じて少人数学習やコース別学習、習熟度別コース学習などを取り入れている。

- ・ 1, 2年(4クラス) + 少人数加配一名
- ・ 3年 (2クラス) + TT加配一名
- ・ 4年 (3クラス) + 教員補助者一名
- ・ 5, 6年(4クラス) + 少人数加配一名

理解や習熟の程度に応じたコース別(グループ別)学習

上記の指導体制のもと、学級の枠にとらわれない柔軟な指導体制が可能になった。そこで、各学年の児童の実態と単元の学習内容に応じて学級を2つに分けたコース(グループ)や学年を3~4に分けたコース(グループ)で実践指導を行った。

コース(グループ)分けの方法は下記に記した通りである。単元を通してコース

(グループ)別学習を行い学習期間が長くなる場合などに、自分のコース(グループ)選択を訂正したい時には、教師と相談しながら途中でコース(グループ)を変更しても良いことにした。

- ・ コース(グループ)分けの方法

- ア 無作為に(機械的に)グループ分けをして、ほぼ等質グループを複数作る方法

- イ 「事前のレディネステスト(プレイスメントテスト)」によって、ある程度児童のグルーピングを行ってから、教師のアドバイスと共に最終的に児童に自己選択させる方法

- ウ 「コース(グループ)の学習内容の難易度」を提示し、教師のアドバイスと共に(保護者と児童が相談して)最終的に児童に自己選択させる方法

- エ 「コース(グループ)による学習方法の違い」を提示し、教師のアドバイスと共に、最終的に児童に自己選択させる方法

- オ 「単元の学習内容に関わる導入の一斉指導」を行い、学習内容と学習に対する見通しを持たせた上で、(イ)(ウ)を用いる方法

- 授業中における個別指導

昨年度まで授業中以外の時間に行っていた個別指導を、協力者を一名増やすことにより授業中に行っている。このことにより、主に「補充的な学習」を必要とする児童に対して、一斉指導の中で個別指導を行っている。

- ・ 教頭(5年生担当) ・ 教務主任(2年生担当) ・ 研究主任(曜日ごと各学年)

- 復習タイムの設定と活用

算数科で年間十五時間多く指導時数を確保し、単元の習熟や繰り返し学習の時間、あるいは、レディネスを高める時間として活用を図っている。

- 指導に関する情報交換

指導者同士の打ち合わせ時間は、各学年ごとにできるだけ朝や休み時間・メール等を有効に使い、短時間で済ませるようにしている。職員室での話題も自然に授業のことや子どものことになり、改めて放課後に時間を割かなくてもよくなりつつある。

- 指導案・ワークシート・実践記録の蓄積と共有化

各学年で作成した指導案やワークシートはコンピュータにも保管し、随時閲覧・使用できるように共有化している。また、今年度の指導の記録も実践記録として蓄積し、来年度への実践に役立てられるようにしている。作成したものは各学年の情報交換としても役立てている。

- 一人一人のよさや可能性を伸ばし、指導に生かす評価の工夫

- ・ 「あしあとカード」の活用

全学年で、児童一人一人の毎時間の学習状況を把握・評価して次の指導に生かすことや、児童の学習を認め励まし、意欲を持たせるために、自己評価を兼ねた評価カード「あしあとカード」を作成、活用している。

- ・ 座席表・チェックリストの活用

- ・ レディネステスト・プレテストの活用

- ・ 少人数指導におけるの評価の情報交換

- 個に応じた指導を行うための教材教具の開発

- ・ ワークシートの作成

- ・ 算数的活動を補助する具体物・半具体物の作成

- ・ コンピュータソフトの活用

- 「学び」を促す学習環境づくり

- ・ 多様な学習形態に対応できる場の設定

T T指導や少人数指導の多様な学習スタイルを可能にするオープンスペースや特別教室等の設定を行い、活用している。

- ・ コンピュータを活用できる学習環境づくり

調べ学習や検索・ドリル問題にコンピュータを常に活用できるように、全ての教室に各2台などコンピュータ室以外の場所にもコンピュータを設置し、活用している。

- ・ 学習に関連する掲示物やワークシートの常設

学習の時期に合わせて、補助教材となる掲示物やワークシートなどを教室周辺に備え、児童の学ぶ意欲と考えの手助けとなるような環境づくりに努めている。

2 小学校における教科担任制の取組状況

(1) 教科担任制による指導体制の工夫改善

教師の得意分野を生かし、指導力向上と効率化を図るために、また、児童にとってよりわかりやすく楽しい授業の創造をめざし、小学校における教科担任制のあり方を探り、実践を進めている。

教科担任実施教科（他の教科は担任指導）

- ・ 3年生（2クラス2教諭で）
「音楽」「体育」を教科担任
- ・ 4年生（3クラス3教諭で）
「図工」「音楽」「体育」を教科担任
- ・ 5, 6年生（4クラス5教諭で）
「書写」「社会」「理科」「音楽」「図工」「家庭科」を教科担任

実施について

- ・ 主に月・火・木・金曜日の3・4校時を教科担任で指導する時間とした。
- ・ 1・2時間目は学級担任指導の国語の時間や学年の算数を入れて、各学級で落ち着いて1日がスタートできるようにした。

() 成果と課題

成果

- ・ 算数科に焦点を当て、全学年の指導体制や指導方法を工夫することにより、児童一人一人の学習内容の定着度が確実に上昇した。
- ・ 「自ら進んで難しい問題に取り組みたい。」「もっと多くの問題に向かいたい。」などの、学習に対する積極性が増している。
- ・ 算数的活動を取り入れた指導を積極的に実践したことにより、算数の学習が日常生活に役に立つと答えた児童が多くなり、学習の意味を理解する児童が多くなった。
- ・ 算数で毎時間自己評価カードを使用すると共に、コース別学習をさせる際に児童の自己選択を含めたコース選択を継続的に行うことにより、児童の自己評価に客観性が育ち、自分に合ったコース選択ができる力が育ちつつある。
- ・ 3年生以上の一部教科担任制において、教師の得意分野を生かした指導体制で指導を行うことにより、多くの児童に対してより専門的でわかりやすく楽しい学習を提供できるようになった。

課題

- ・ 全学年の算数科で年間を通して TT 指導や少人数指導を行ったが、他教科への波及や効率的な人員配置でより効果的な少人数指導を行うために、学年や単元の抽出・選定を行う必要がある。
- ・ 5, 6年生各2クラス（計4クラス）を4人の担任+1名で行う教科担任制では、教科の時数調整が難しい点や教師の教材研究の負担が増すという点、さらに、生徒指導上の問題点が課題になった。

() 成果の普及方策

1 平成14年度

- (1) 授業参観と説明会
 - ・ 対象：保護者，地域教育関係者，町民（6回実施済，今後1回予定）
 - ・ 対象：他校職員（年2回3校に対して実施済）
 - ・ 対象：5年経過教職経験者研修会参加者（1回実施済）
- (2) ホームページでの研究内容公開
 - ・ 3月末まで作成予定 <http://sanbon-e.myswan.ne.jp>

2 平成15・16年度

- (1) 授業参観と説明会
- (2) 公開授業
- (3) ホームページでの研究内容公開